

# 朝明川砂防学習ゾーン

(三重郡菰野町大字千草地内)



三 重 県

# 事業の目的



▲朝明砂防学習ゾーン全景



▲模型流路工（上流部より）



▲小公園



▲階段流路

朝明溪谷は、水と緑の貴重なオープンスペースとして地域社会にうるおいを与えると同時に、景観形成や余暇の有効利用等において重要な役割を果たしています。

また、朝明川流域では幾多の新旧砂防施設が自然と闘い、調和して『砂防』としての役割を果たしているのを見ることができます。

このため、朝明溪谷キャンプ場上流の猫谷川と根の平峠・羽鳥峰峠への登山道に囲まれた場所を朝明川砂防学習ゾーンとし、隣接する猫谷川と一体的な整備を図ることによって「うるおいとふれあいのある水辺空間」を創出して、来訪者に憩いの場を提供するとともに、砂防学習ゾーン内には、各種砂防施設のミニチュアを設置し、自然を守り豊かな国造りを進めるための『砂防』の大切さを知ってもらうこととしました。

# 朝明川水源砂防工事の歴史

朝明川が流れる北勢地域は、御在所岳等 1,000m級の山が連なり、鈴鹿山脈、養老山脈を形成し東側の伊勢平野に向かって急傾斜しています。菰野町、四日市市等を流域とする朝明川の水源地帯は、古生層地帯と花崗岩地帯が交互に存在し、全体的に風化侵食を受け、広範囲な集積地、崩壊地があり荒廃の進んだ地域で、江戸時代から土砂留工事が施工されてきました。



▲ 大正10年完成のダム工

明治32年(1899)鈴鹿山系が広範囲にわたって砂防指定地に編入されたこと

により、補助砂防事業が着手されました。特に花崗岩地帯の荒廃地であった菰野町の朝明川水源においては、緑化を主体とした山腹工事が施工されました。

明治43年(1910)には千草砂防工営所が設置され、本格的な砂防工事が推し進められることとなりました。当時の工法は粗伏工、張芝工、苗木植栽工、水路石張工、空石積堰堤工等であり、昭和10年(1935)頃までの約40年間にわたって重点的に山腹工事が進められました。

大正の末期頃から溪流工事も進められ、大正11年(1922)朝明川で練石積堰堤が初めて施工されました。以降、貯砂を目的とした砂防ダムや、流路工へと工事の主体が変遷していきま

した。しかし、度重なる台風等により、朝明川上流の猫谷の山腹崩壊が拡大進行し始めたため、昭和42年(1967)から昭和49年(1973)までの8年間にわたり、植栽工、ダム工、擁壁工、積苗工等により大規模な山腹工を施工しました。

現在は、砂防ダム4基、流路工3箇所を整備に取り組み、県民生活の安全確保に努めています。

## 砂防設備の現状

(平成4年度末)

| 水系  | 幹川名 | 既設砂防設備    |           |     |       |     |                     |
|-----|-----|-----------|-----------|-----|-------|-----|---------------------|
|     |     | ダム<br>(基) | 床固<br>(基) | 流路工 |       | 山腹工 |                     |
|     |     |           |           | 箇所  | (m)   | 箇所  | ((m <sup>2</sup> )) |
| 朝明川 | 朝明川 | 24        | 23        | 5   | 6,045 | 6   | 18,812              |
|     | 杉谷川 | 8         | 2         | 1   | 1,081 | 2   | 14,131              |
|     | 田光川 | 9         | 14        | 6   | 1,761 | 0   | 0                   |

## 砂防学習ゾーン施設の概要

砂防学習ゾーンは、砂防環境整備事業として平成2年度、3年度の2箇年をかけ総事業費60,000千円で猫谷川沿いの0.5haの土地に小公園を整備し、砂防ダム・流路工等のミニチュア施設を設置したもので、その概要は下記のとおりです。

ミニチュア施設は大きく2つに大別し、上流部を『砂防ゾーン』、下流部を『うるおいゾーン』として位置づけています。

『砂防ゾーン』には、鋼製スリットダム・石積ダム・コンクリートダム・岩組護岸・石積護岸・ブロック積護岸・コンクリート三面張流路・崩壊地・山腹工等を配置し、各工法を解説したパネルを設置し「砂防について学ぶ場」としています。

『うるおいゾーン』には、玉石張流路・修景流路・階段式流路・落差工を配置し、「水とたわむれる場」としています。

また、菰野町は「憩いの空間」として学習ゾーンの有効利用を図るため、地方特定河川等環境整備事業を活用して、朝明溪谷憩いの広場整備事業を実施し、学習ゾーン内に園路・張芝・ベンチ・テーブル等を配置しています。

一方、本川の整備は水と緑の砂防モデル事業として取り組み、周辺景観と調和した自然石・岩組護岸工とし、親水機能を高めるため階段護岸工を設けています。



▲猫谷川



▲溪流沿いのキャンプ施設



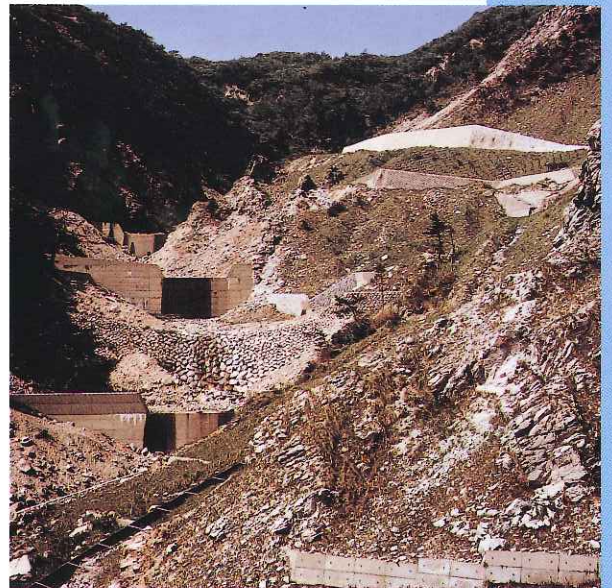
▲登山道



▲ 模型流路工 (うるおいゾーン)



▲ 空石積 (床固工)



▲ 明治時代の山腹工



▲ 山腹工 (谷止工)



▲ 山腹荒廃状況

